

## 第三者評価結果報告書（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

### ①第三者評価機関名

一般社団法人香川県福祉サービス評価機構
---------------------

### ②評価調査者研修番号

H23-Y014
R3-Y001 (S2021088)

### ③施設名等

名称：	讃岐学園
施設長氏名：	折目 勝文
定員：	50名
所在地(都道府県)：	香川県
所在地(市町村以下)：	高松市前田東町569番地2
T E L：	087-847-5171
U R L：	<a href="https://www.kouzenkai.jp/sanukigakuen/">https://www.kouzenkai.jp/sanukigakuen/</a>

#### 【施設の概要】

開設年月日	昭和27年5月10日
経営法人・設置主体（法人名等）	社会福祉法人弘善会
職員数 常勤職員	32名
職員数 非常勤職員	5名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の数	3名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の数	8名
有資格職員の名称（ウ）	児童指導員任用資格
上記有資格職員の数	9名
有資格職員の名称（エ）	看護師
上記有資格職員の数	1名
有資格職員の名称（オ）	臨床心理士
上記有資格職員の数	1名
有資格職員の名称（カ）	管理栄養士、調理師
上記有資格職員の数	1名、3名
施設設備の概要（ア）居室数	大舎、グループ 合計 36室
施設設備の概要（イ）設備等	居室、グリーンホーム（自立援助施設）、小規模グループケア施設、
施設設備の概要（ウ）	洗面・洗濯室、脱衣室、浴室、居間、台所・食堂、応接室ほか
施設設備の概要（エ）	

### ④理念・基本方針

<p>【理念】</p> <p>濟世利人（さいせいりにん） 世の中を救い、人々に利益を施すこと、これが弘法大師の願いであり活動です</p> <p>【基本方針】</p> <p>平和な日々を子どもと家族が幸せに暮らせるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもの権利を守ります</li> <li>○安全で安心な生活を保障します</li> <li>○職員は子どもとともに育ちあいます</li> <li>○職員は専門的な知識と力をつけます</li> <li>○家族とともに子育てします</li> <li>○地域の一員としてともに歩みます</li> </ul>
--

⑤施設の特徴的な取組

- ・心理的ケアが必要な子どもの増加への対応として、心理療法担当職員を男女2名配置している。
- ・職員の専門性向上のため、テーマ別のグループによる職場内研修を行い、成果を冊子にまとめ活用している。
- ・学園内にICT推進委員会を設置してICTを活用した教育や施設内業務の効率化などに取り組んでいる。
- ・里親支援機関として、里親や委託児童への相談・助言、レスパイトの受入れ等の支援、里親研修の実施や制度の普及啓発活動を行っている。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	令和4年7月1日
評価実施期間（イ）評価結果確定日	令和5年2月24日
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和元年度

⑦総評

【特に評価の高い点】

<心理療法担当職員を男女各1名配置し、施設全体で積極的な心理的ケアに努めている>

近年、心理的ケアが必要な子どもが増加傾向にあることから、その対応として、心理療法担当職員を、配置基準を上回る男女各1名配置している。心理的ケアを必要とする子どもについては、個別の自立支援計画に基づき心理支援プログラムを策定し、外部の関係機関や専門家等と連携し、心理療法担当職員を中心に丁寧な支援を行っている。心理療法担当職員は、グループミーティングやケース会に参加して子どもの様子の把握に努め、心理面接の場面で得た情報を他の職員と共有することで、継続的で効果的な支援を展開している。心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれていることがうかがわれる。

【改善が求められる点】

<十分な職員の確保と定着に向け、より効果的な取り組みが求められる>

職員定着プログラムの策定や研修機会の充実等、施設全体で人材確保と定着のためにあらゆる方策を講じているが、その効果は十分に発揮されていない。今後も子ども一人ひとりに応じたきめ細かな養育・支援を継続していくために、今一度現状の取り組みを見直し取り組みの拡充を行う等、人材の確保と定着や職員の心身の負担軽減に向けたなお一層の取り組みが行われるよう期待したい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

職員一人一人が、施設の現状を認識し、施設で生活する子どもたちとどうかかわっていくかを第三者から評価していただいたことは、現状を見直してみるよい機会となりました。

第三者評価でアドバイスされたことを、職員全体に周知し、問題点を共有して、改善出来るところから改善していきたいとします。心理療法担当職員を男女各1名配置して子どものニーズに応じた心理的ケアに努めていることに対して高評価が得られたことは、職員の励みとなり、今後も継続して支援を展開してまいります。

また、人材確保が難しくなっている現状から職員の定着を考えて、職員の負担軽減を図るとともに、より良い人材を求めるために、社会的養護を必要とする子どもたちのためにも、この評価制度を活用するなどして、施設運営の質の向上を図っていかねばならないと感じました。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

## 第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

### 1 理念・基本方針

（1） 理念、基本方針が確立・周知されている。

		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○

【コメント】

理念・方針は、定款やホームページ、パンフレットに掲載され、施設内にも掲示して広く周知している。職員に対しては、年度当初の職員会にて全職員に周知し、理念・方針を記載したカードの携帯および各会議の場で振り返りを行うことにより周知を徹底している。子どもや保護者に対しては、入所時の説明、年度当初の家庭通信の配布、職員との話し合いの場や権利ノートの読み聞かせ等を通じ、継続的に理解を促している。

### 2 経営状況の把握

（1） 経営環境の変化等に適切に対応している。

		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○

【コメント】

関係機関からの提供により情報収集するほか、県内外の研修や各種会議に積極的に出席し、社会福祉事業全体の動向や各種福祉計画、地域の課題の把握に努めている。収集した情報や資料は、参加報告や回覧などで全職員に周知し、各種福祉計画を必要に応じて施設の運営に反映させている。加えて、入所児童数の減少や小規模化による経営状況の今後の推移等のシミュレーションを行い職員間で共有する等、得た情報を分析し施設運営に活かしている。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

子どもや職員の配置、給与体制、来年度職員募集等、具体的課題や問題点を含めた経営状況や人員体制については、役員間で共有するほか、各種会議にて施設長や事務長から職員に周知することで共通理解を図っている。  
 平成30年度には大舎内小規模化を計画し大規模改修を実施する、令和2年度には定員を50名に変更する等、入所児童数の減少等の現状に鑑み、現況に即した見直しを図りながら中長期計画を実行している。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。

第三者  
評価結果

①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

厚生労働省の進める施設の小規模化と家庭的養護の推進を軸に、中長期計画を策定・実行し、職員に周知している。コロナ禍の影響や政府の方針転換等により計画の実施状況の評価や定期的な見直しが困難な状況であるが、理念や基本方針の実現に向けて、計画途中や計画期間の終了後に振り返りを行う機会を設ける等、実施状況の評価についてなお一層の取り組みを期待したい。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

単年度の事業計画は、中長期の事業計画や収支計画および前年度の振り返りに基づき策定し、実行可能かつ具体的な内容となっている。施設の性格を鑑みると数値目標を設定するのは困難だが、理念・方針に基づき、生活や支援の目標、年間目標等を具体的に記載することにより、研修報告や各グループの振り返りを通じて適切に成果を把握し、実施状況の評価を行っている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

事業計画は、子どもの意向を確認する、半期ごとに各グループで目標設定と振り返りを行う、年度当初に職員全体に周知する等、あらかじめ定めた時期と手順に基づいて策定・実施されている。事業計画の策定にあたっては、各職員の意見を集約・反映することとしており、全職員が事業計画の策定や見直しに主体的にかかわり、施設全体で事業計画の共通理解がなされる体制を構築している。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【コメント】

事業計画に明記する施設の運営方針については、施設内の掲示や保護者への文書の配布により周知している。養育・支援の目標を含めた事業計画の主な内容については、定期的に開催している職員と子どもとの意見交換の場（FE会）や日々のかかわり等を通して子どもに伝えるよう努め、子どもの意識づけを目的とした資料の配布や掲示を適宜行っている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

事業計画に基づき、子どもの生活グループごとに支援目標を掲げ、定期的に振り返りや職員間での共有を行っている。自立支援計画も定期的に見直しを行い、個々の支援は、各種会議や日々の引継ぎ等でその都度検討し実践している。第三者評価は、受審期ごとに受審し、毎年自己評価を行っている。施設全体でPDCAサイクルに基づき養育・支援の質の向上に取り組んでいる。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

第三者評価の評価結果や自己評価結果は、各種会議を通じて全職員と共有し、施設全体で課題の分析と改善策の検討・実施に努めている。改善策は実現可能で具体的なものとなるよう、また可能なものから順次取り組めるよう、協議や周知を行い、必要に応じて見直しを行っている。職員の参画のもと、課題の明確化と計画的な改善策を実施している。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。

第三者  
評価結果

①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

施設長の役割と責任は、経営主体の管理規程や事業計画および職務分掌等の文書により明確に表明している。職員に対しては、各種会議にて折に触れて説明し周知を図っている。有事における施設長の役割と責任についても、各種対応マニュアルにて、有事の責任体制や職階別の対応方法等を詳細に定めている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

施設長は、施設の健全な運営に必要な法令等を十分に理解し、利害関係者との適正な関係を保持している。法令遵守の観点での研修や勉強会についても、関係機関の会議に参加したり、社会的養護や施設長に求められる役割について研修を受講することで日々理解に努めている。職員に対しては、施設内の各種会議において遵守すべき法令等を周知・説明し、理解を促している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

施設長は、各報告書や記録、ケース会等により定期的かつ継続的に養育・支援の質の現状を把握し、評価・分析している。職員に対しては、日頃の職員とのかかわりの中で指導する、グループミーティングや目的別の研修チームを設定する、個別面談の実施や自己申告書の提出によって職員の意向を把握する等のあらゆる方法により、職員一人ひとりの養育・支援の質の向上および専門性の向上に努め、その指導力を発揮している。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

施設長は、人事、労務、財務等の経営状況を適切に把握し、人員配置や環境整備に取り組むほか、県内外の研修や関係機関との会議等から得た情報を職員に周知し、業務の実効性を高めるよう励んでいる。グループミーティング、リーダー会議、各種委員会の設置や施設内職員研修の実施、および必要に応じてその研修に参加し指導する等、施設長は意欲的に経営の改善や業務の実効性の向上に取り組み、指導力を発揮している。

## 2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職（有資格の職員）の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設（法人）として、効果的な福祉人材確保（採用活動等）を実施している。	
	（社会的養護共通） <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

職員定着プログラムを策定し、職員が定着するよう計画的かつ具体的に取り組んでいる。また、コロナ禍である現状でもオンライン研修等を活用する等工夫して人材の育成を図っている。人材の確保・定着について、施設では成果が乏しく困難と感じているが、すでに実施している様々な取り組みを検証しより一層の充実を図ることにより、効果的な福祉人材の確保につながるよう期待したい。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準（採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準）が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

「期待する職員像等」を就業規則に、「職員の行動指針」を事業計画にそれぞれ明記し、職員に対し定期的な意識付けと振り返りを行っている。人事基準については、職員室に保管している規程集によって確認でき、特定の資格取得時は昇給を行っている。今後は、人事考課制度の導入の検討や人事基準の周知を図る等、職員一人ひとりが将来の見通しを持って働けるよう、さらなる取り組みに期待したい。



(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

管理規程に基づき労務管理を行い、責任体制を明確にしている。個別面談やアンケートを実施し、休憩室の確保や休暇制度の充実等、ワーク・ライフ・バランスへの配慮と働きやすい環境作りに努めている。また、職員定着プログラムや上長による精神面の支援、職員向けの相談箱の設置等、職員の心身の健康と安全の確保に積極的に取り組んでいる。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

各職員の経験や職種および資質に応じた研修の機会の確保や、新人職員を対象とした経営主体による面接の実施等、職員の育成に向けた取り組みを行っている。自己申告書に記入した自己目標については年度末に施設長との面談で達成度の確認を行い、進捗状況については必要に応じて施設長等が面談することにより進捗状況を確認しているが、より適切に進捗状況の把握ができるよう、計画的に中間面接を行う等さらなる取り組みに期待したい。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

「期待する職員像」は就業規則や事業計画に明記し、施設が目指す養育・支援の方向性や内容については、事業計画に具体的に記載し職員に明示している。各職員は、研修計画に基づき施設内外の研修に参加している。研修計画の内容やカリキュラムは毎年度評価し見直しを行っている。今後は、研修計画に施設が職員に求める専門技術や専門資格を明示する等、各職員がより高い意識を持って研修を受けられるよう、さらなる取り組みに期待したい。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

職員の研修については、研修計画に基づき、職員の経験や職種および資質に応じた施設内外の研修機会を確保している。研修の報告書や職員別の受講履歴等により、各職員の状況を把握している。OJTや日常業務でのかかわりを通じて、職員が上長に相談しやすい環境づくりに配慮している。寮長や基幹的職員を中心としたスーパービジョン体制を整備しており、職員の専門性や施設の組織力の向上に努めている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習マニュアルに基づき、実習生を受け入れている。保育士や社会福祉士等、専門職種の特性に依拠してプログラムを整備している。事前のオリエンテーション、実習生のニーズに合わせた専門職による講和等、実習生の受け入れに積極的に取り組んでいる。施設は、実習の指導者に対する研修機会の確保を目指しているが、これが可能となり実習内容がより一層充実されることを期待したい。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	第三者 評価結果
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○	
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○	
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○	

【コメント】

ホームページや広報誌に掲載する方法によって、施設の目的、法人の基本理念、養育・支援の内容、事業計画、決算報告、苦情・相談の体制・内容を公開している。第三者評価の受審結果も県や全社協のホームページにて公開している。また、機関誌を作成配布することで、入所する子どもやその保護者のみならず社会・地域に対して施設の存在意義や役割を明示している。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

就業規則に付随する各種規程や業務分掌に基づき職務分掌と権限を明確にし、職員に周知している。法人内監査を定期的実施し運営の確認をしているほか、毎年県の監査を受け、指摘事項については改善を行っている。財務状況についてはホームページや年間事業計画概要に適宜掲載している。公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取り組みを組織的に行っている。

#### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。

		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

職員は、地域の行事や活動に積極的に参加するよう子どもに働きかけを行い、職員自らPTA行事やあいさつ運動等の地域の行事に参加し、子どもが地域の一員として生活できるよう努めている。また、地域に住む子どもが施設に遊びに来やすい環境づくりを行っている。買い物や遊びの日常的な活動の範囲は、子どもの年齢や成長に合わせて適切に設定している。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

ボランティア受け入れに関する基本姿勢はホームページや広報誌に明記している。ボランティアを受け入れることの目的やその手順、ボランティア実施時の配慮等の留意事項を明文化し、コロナ禍以前はそれに基づき受け入れを行っていた。今後は、地域の学校教育への協力について基本姿勢を明文化することで、ボランティアの受け入れや学校教育への協力を通じて施設が持つ機能を地域へ還元できるよう、さらなる取り組みに期待したい。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストを作成し、各生活グループで共有している。学校・児童相談所・市町の子育て支援課等の関係機関と定期的に連絡会を実施し、地域の課題の把握や改善に努めている。幼稚園・学校のPTA役員を務める、地域の健全育成の会、PTA父親の会にも属する等、積極的に地域の行事や活動に参加し、協働に努めている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○

【コメント】

地域や関係機関等に施設の行事の案内を行う、地域の各種会合や行事に積極的に参加する等、地域の福祉ニーズの把握に努めている。コロナ禍以前は、担当の研修チームがコミュニティーセンターに出向き親子イベントを企画したり、養育相談に応じる機会を設定しており、現在も可能な限り施設が持つ機能を地域へ還元しようと努めている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

コロナ禍により限られた形ではあるものの、地域のあいさつ運動や防災訓練等の活動に子どもも職員も積極的に参加し、地域貢献に努めている。施設の立地は避難場所には適していないが、施設内に十分な備蓄品を確保し、被災時の地域住民への支援は可能としている。今度は、施設が有する養育のノウハウや専門的な情報を地域の福祉ニーズに沿って還元できるよう、より一層の取り組みに期待したい。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

基本方針の一つとして、子どもの権利を守ることを明示し、施設内に掲示している。職員は、「子どものかわりを振り返ってみよう」をラミネートカードにして常に携帯しており、職員間の意見交換、職員自身の取り組みを振り返る機会の確保、各種会議等での全養協の倫理綱領の読み合わせ、人権擁護チェックリストの活用、アドボカシー研修の実施等あらゆる方法によって、子どもを尊重した養育・支援の実施に努めている。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【コメント】

個人情報保護取扱マニュアルに基づき、子どものプライバシーに配慮した支援を行っている。子どもや保護者には、入所時に「讃岐学園で生活するあなたに」を配布して、プライバシー保護に関する取り組みを説明している。男女の生活空間や動線を分ける、他児の居室への立ち入りを禁止する、中高生は可能な範囲で個室にする等、一人ひとりの子どもが落ち着いて生活できるよう環境を整備している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特徴等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

ホームページや広報誌に、子どもの様子や施設の活動を掲載している。広報誌は、季節行事の様子を写真付きで掲載し、子どもにも分かりやすい内容となっている。入所前の面会や施設見学時には、子どもにも分かりやすい言葉や写真を用いた資料を配布し個別的に説明している。子どもや保護者から要望があった場合には、その可否について十分に検討したうえで丁寧に説明している。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

入所の同意にあたっては、児童相談所と連携し、入所前見学や資料を用いた説明等、施設の生活やルールについて理解を促している。子どもへの説明に用いる資料は、年齢に応じて作成し、子どもに分かりやすい内容となるよう配慮している。入所後の養育・支援の過程についても、保護者にはお便りや広報誌を通じて伝えたり、行事の前にはあらかじめ説明し同意を得られるように努めている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

入所前には、子どものこれまでの生活について慎重に聞き取りを行い、子どもが無理なく施設での生活を送れるように受け入れを開始することとしている。措置変更等により子どもが施設を退所する場合には、措置変更後の施設・里親等に対し、養育・支援の内容について引継ぎ文書を用いて十分に説明するよう努め、子ども・保護者に対しては、アフターケアを行えるよう文書や連絡先カードを配布して説明している。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者  
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

年に2回の自立支援計画の見直し時に、子どもの要望や意見を聴取し計画に反映させている。センターワーカーや児童相談所のワーカー等と子どもとの話し合いの機会を確保する、子どもの要望や意見を聞く場としてF E会を開催する、アンケートを実施する等、子どもの満足を把握する取り組みを定期的に行っている。苦情を把握した場合には、ホームページや広報誌にて公開するとともに分析・検討を行い改善に努めている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

経営主体における苦情処理要綱に基づき施設の苦情処理細則を整備している。子どもや保護者に対し、苦情解決の仕組みを分かりやすく説明した資料を配布し施設内に掲示している。匿名で投函できる苦情箱を子ども・保護者に向けてそれぞれ設置する、保護者アンケートを実施する等、苦情を申し出しやすい工夫している。収集された苦情内容は、規程に則り適切に保管・対応しており、養育・支援の質の向上に努めている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

子どもには、施設の外の大人にも相談できることを周知している。職員が子どもから相談や意見を聞く場合は、子どもが安心して自分の思いを伝えられるよう、落ち着いた場所に対応することとしている。保護者に対しても、苦情箱の設置や家庭通信での案内、アンケートの実施等、保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

苦情箱や日々のかかわりから得た子どもの意見に対して、日々の引継ぎや会議等で常に検討・改善を行い、子どもに説明するよう努めている。その対応に時間を要したり外部の協力が必要な場合等には、子どもに進捗状況や見通しを説明するようになっている。子どもの意見への対応と養育・支援への反映については明確にルール化しており、定期的に見直しを行っている。



(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者  
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

感染症対策委員会の設置や安全衛生懇談会の開催等は責任者を明確にして行っている。ヒヤリハットは、発生の都度職員間で共有を図っており、各種対応マニュアルの見直しに反映させている。施設の定期点検、訓練・研修等、事故防止・対応方法のためのあらゆる取り組みを実施している。子どもが安心・安全を得られる環境で養育・支援を実施できるよう、リスクマネジメント体制を構築している。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

感染症対策会を設置し、感染症の予防や発生時における対応を検討している。感染症予防に関するマニュアルを整備しており、研修や説明を通じて職員に周知徹底するとともに、定期的に見直しを行っている。これらの取り組みを実施することにより、感染症の予防や発生時の対応を適切に行っている。子どもの安全確保のための体制を整備しており、それが十分に機能している。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○	

【コメント】

火災や地震等の各種対応マニュアルを整備しており、災害の発生を想定した研修や避難訓練を定期的実施し、適宜その内容を検討し更新している。食料・備品・日用品等の備蓄はそれぞれ担当者を設けて管理している。今後は、より具体的な事業継続計画を整備しそれを職員と共有することによって、災害発生時でも継続して養育・支援が実施できるよう一層の取り組みに期待したい。

## 2 養育・支援の質の確保

### (1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。

		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

事業計画や自立支援計画、業務マニュアルに、子どもの尊重や権利擁護、プライバシーの保護に関わる姿勢、養育・支援の標準的な実施方法を明記している。年度当初に各グループ内で業務マニュアルの読み合わせを行い、職員によって養育・支援の方法に差異が生じないように共通理解を図っている。加えて、毎月のグループミーティングで標準的な実施方法や考え方を確認し、職員の理解を深めるよう努めている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

事業計画や自立支援計画等に定めた標準的な養育・支援の方法については、各種記録や日誌、職員の意見や日々の支援状況および子どもの様子・意向等を参考に、あらかじめ定めた時期と方法によって検証し、見直しを行っている。組織的に標準的な養育・支援の方法について見直しをする仕組みが確立しており、施設全体で養育・支援の質の向上に努めている。

### (2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

自立支援計画は、基幹的職員を責任者として、グループ担当者、ユニット・グループの各リーダー、寮長（FSW）、心理療法担当職員、里親支援専門相談員、個別対応職員、看護師が参画して策定している。策定・見直しの都度子どもの意向を確認し、反映させている。適宜施設内外での検討会を実施し、外部の専門家によるのアドバイスを受けるほか、必要に応じて医療機関に相談している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

養育・支援の実施状況は、日々の育成記録やミーティング等の記録により確認することができる。自立支援計画の評価と見直しや緊急的な計画変更は、それぞれのマニュアルに沿って実施している。自立支援計画の策定、変更および評価する際は、その都度、養育・支援の質の向上に関する課題を明確にし、標準的な実施方法に反映させるよう努めている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

養育・支援の実施状況の記録方法をマニュアル化し、職員によって差異が生じないよう、リーダーが指導および確認を行っている。記録方法のマニュアルは定期的に見直しと周知を図っている。必要な情報が適宜届くよう、各種会議や職員回覧、引継ぎ、パソコンの共有フォルダーの活用等あらゆる方法を用いて情報共有を行っている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

個人情報保護に関する規程を整備し、施設長を記録管理の責任者として、適切に子どもに関する記録を管理している。子どもや保護者に対しては、文書や口頭での説明により、理解を促している。職員に対しては、職員会や日々の業務の中で重要な考え方や対応方法を具体的に周知しているが、今後は改めて教育や研修の場を設ける等の取り組みにより、施設の取り組む個人情報保護の体制についての理解がなお一層深まることを期待したい。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護

		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

子どもの権利擁護については、安心安全マニュアルを整備し、子どもの権利擁護は施設の全ての業務において当然に最優先されるべきものであるとの考えを職員に表明している。施設は、諸会議で常に職員の理解を図り、全職員が共通してその考えを認識し実践している。子どもに対しても、権利ノートを活用して日々の生活と結びつけながら理解を促す、施設として宗教的活動を行わない等、子どもの権利擁護に適切に取り組んでいる。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

自他の権利については、権利ノートや年齢に応じて作成した資料を活用して、全体的または個別的に共に考える機会を適宜確保している。職員は、権利擁護を常に意識して子どもとかかわり、トラブルが発生した場合は子どもの話を丁寧に聞き、子どもに正しい理解を促しているが、子どもの入所背景も相まって、人間関係のトラブルや自傷行為等は施設の長年の課題となっており、今後はその解消に向けた取り組みに期待したい。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

子どもに生き立ちを伝える場合は、職員間で綿密に連携し、児童相談所等の関係機関との協議や家族との調整を行ったうえで、子どもの状況や気持ちに寄り添いながら慎重に行うこととしている。子どもが生き立ちを振り返った際には、子どもの変容を十分に観察し、必要に応じてメンタルクリニックや学校にもフォローや見守りを依頼している。子ども一人ひとりにアルバムを用意し、発達状況に応じて担当職員と整理することとしている。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

安心安全マニュアルに基づき、職員間で不適切なかかわりや子ども間の問題の早期発見と予防について共有し検証を行うことで、職員の規範意識を高めている。子どもには、困ったときの訴え方や施設内外の大人に相談できること等を丁寧に伝え、意識向上に努めている。施設内での対応が困難な場合には、第三者委員会や外部の関係機関の協力を得られるよう体制を構築している。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

入所前に職員との面会や施設見学を行う、あらかじめ子どもの好きな色やキャラクターを把握してそれに合わせた入所準備をする等、施設と児童相談所が綿密に連携して入所時の子どもの不安を軽減できるよう努めている。退所後の子どもについては、退所前にアフターケアの内容を十分に説明したり、退所後に家庭訪問を行う等、子どもが安定した生活を送ることができるよう支援している。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口（担当者）があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

退所を控えた子どもには、外部のアフターケア事業を活用し、子どもの不安が少しでも軽減されるよう努めている。退所後の窓口を伝え、個々のニーズに応じてアフターケアを実施し、その記録を保管している。退所者には学園祭りの案内を行っているが、今後は、退所者が集まれる機会や退所者と職員が交流する機会を充実させる等、アフターケア・リービングケアのさらなる取り組みに期待したい。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本

		第三者 評価結果
①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	

【コメント】

職員は、子ども一人ひとりについての理解を深め、特性や発達に応じて表出する課題を職員間で共有し、現状において最善の養育・支援を実施するよう心掛けている。子どもの担当職員以外の各種専門職員も参画し、施設全体で子ども一人ひとりの内面の理解に努めている。今後は、利用者アンケートの方法や内容の見直しを図る等の取り組みにより、アンケートを活用した子どもたちとの信頼関係の把握になお一層取り組まれることを期待したい。

②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○

【コメント】

子ども一人ひとりの基本的欲求が満たせるよう、大舎では担当職員を中心に子どもの心身の状態の把握に努めている。ユニットにおいては、より家庭に近い環境で子どもが過ごせるように配慮している。生活の決まりは全体に周知しているが、日課も含めて子どもとの話し合いや職員の裁量によって柔軟に対応できるようにしている。宿直者の居場所を明確にしており、子どもが安心して夜を過ごせるよう配慮している。



③	A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○

【コメント】

職員は、子どもが自分でできることを増やしながらか自信や自主性を育めるよう、働きかけや見守りを行っているが、主体的に施設で生活を営んでいる子どもは少ないと感じており、利用者調査からも、子どもの主体性が乏しい様子がうかがわれた。今後は、子どもからの意見を聞く方法の見直しや、子どもが自分たちの生活について自ら検討する機会を拡充させる等、子どもの主体性を育むためのなお一層の取り組みに期待したい。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちの学びや遊びを保障するための、資源（専門機関やボランティア等）が十分に活用されている。	○

【コメント】

コロナ禍により制限はあるものの、子どもの年齢や発達状況に対応した養育・支援が実施できるよう、保育プログラムや個別の自立支援計画を策定している。塾や習い事、スポーツ、買い物、外出、戸外遊び等、可能な限り子どもの意見や要望に応じており、応えられない場合は丁寧に説明している。加えて、公共施設の利用を促す、ボランティアとのふれあいの機会を確保する等、子どもたちの学びや遊びの場を保障するよう努めている。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

入所背景を鑑みると子どもが基本的な生活習慣を確立できるよう支援することにはどうしても時間を要するが、職員が模範となり、施設での生活を通じて子どもの社会的常識が培われるよう支援している。職員は、子どもが自己の健康を管理できるよう支援したり、携帯電話・SNSの使用方法をルール化する等、子どもの発達状況に応じて様々な養育・支援を実施している。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	○

【コメント】

子どもの年齢や生活に応じて食事の提供時間や量・内容を調整し、子どもがおいしく適温で食べられるよう食事に配慮している。残食状況の把握や嗜好調査を定期的実施することで子どもの嗜好の把握に努め、献立に反映させている。季節行事に合わせて子どもと一緒に食事やおやつを作る機会を設ける等、子どもがおいしく楽しみながら食事できるよう工夫している。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

職員は、子どもが清潔で自分の体に合ったものを常に着用できるよう、気候や生活場面・汚れに応じて着替えや衣服の管理の支援を行っている。衣服の購入にあたっては、季節毎に職員と一緒にすることで、子どもは自分の好みとサイズにあった衣服を選ぶことができている。職員は、洗濯やアイロンかけ、補修等の衣服の管理を子どもの生活の場で行い、子どもが衣習慣を習得できるよう配慮している。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

清潔に保たれていて心地よい環境が子どもにとって当たり前となるよう、職員が中心となって子どもの生活の場の清掃や整理整頓を行い、破損や故障した場所や物は早急に修繕するよう努めている。職員は、小学生の子どもには休日に職員と一緒に居室の片付けを行う、中高生の子どもには洗濯や布団干しの声掛けを行う等、子どもの年齢に応じて清掃や整理整頓の習慣が身につくよう支援を行っている。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

嘱託医による子どもの健康診断を年2回実施しているほか、職員が日々のかかわりの中で子どもの体調管理を注意して行い、子どもの健康管理に努めている。服薬については、医療機関と連携して服薬や薬歴の確認を行い、子どもが必要性を認識できるよう説明して服薬させている。職員は、子どもの一人ひとりの心身の健康を管理できるよう、学習したり情報を共有することにより、医療や健康に関する知識を深めるよう努めている。

(6) 性に関する教育

①	A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者との付き合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

職員は、幼児期の子どもであっても、プライベートスペースや性の違いに配慮してかかわるようにしている。男女交際やSNSによる繋がり危険性についても、年齢に応じて職員から話をしている。子どもの疑問には誠実に対応し、職員によって対応に差異が生じないように、共有している。子どもの年齢に応じて学習会を実施し、職員も外部講師を招いて研修を実施する等、健全な他者との付き合いができるよう養育・支援している。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもを安全を守る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

子どもの暴力・不適応行動が発生した場合には、職員は、子どもの話を丁寧に聞いたうえで、子どもに諭すように話をしている。施設内外の研修やケース会での検討に加え、児童相談所等の関係機関と連携して子どもの状態の報告・相談を行い協力を得ることによって、施設のすべての子どもに適切な対応ができるよう、子どもへの理解を深めることや、適切な支援技術を習得できるよう努めている。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人（職員）相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	○

【コメント】

暴力・いじめ・差別が生じないよう、子ども同士の相性や個性には十分に配慮し、必要に応じて随時生活グループの見直しや職員の断続勤務、複数体制でのかかわり等を行い柔軟に対応している。特別な配慮を必要とする子どもや子ども間の問題が発生した場合には、児童相談所に協力を仰いでいる。問題の発生予防、早期発見と早期解決のために、施設全体で取り組んでいる。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

心理療法担当職員を男女各1名配置し、心理療法室を設置している。心理的ケアを必要とする子どもについては、個々の自立支援計画に基づき心理支援プログラムを策定している。心理療法担当職員は、施設内外のケース検討会やスーパービジョンに参加し、児童相談所の心理司やメンタルクリニックの医師からの助言を受ける等により、より効果的な心理的支援を検討・実施している。施設全体で子どもの心理的な支援に努めている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別の学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

静かに落ち着いて自主学習ができるよう、年齢に応じた学習スペースを確保している。学校と日常的に連携し、可能な限り子どもの学習状況を把握するよう努めている。本人の希望に応じて学習塾への通学も可能としている。発達障害や発達遅滞の子どもについては、保護者や学校、児童相談所、医療機関等と情報を共有しながら、本人の意向に沿って支援を行っている。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

進路については、個別的に情報提供や相談等の支援を行っている。進路の決定にあたっては、関係機関や保護者と情報を共有し、子どもが納得して進路を決められるよう努めている。高校卒業後に進学した子どもについても、措置を延長して支援を継続することが可能となっている。学校を中退したり不登校とならないよう支援しているが、今後は、そうなった子どもでも継続して施設の支援が受けられる方法を模索されることを期待したい。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

子どもがアルバイトを希望した場合は、職員とアルバイト先を相談して決定し、働くことへの責任について話し合う機会を設けている。また、必要に応じてアルバイト先と連携し、子どもの状況を伝えている。実習や職場体験については、施設自ら積極的に実習先を開拓したり子どもに斡旋する体制とはなっていないことから、今後は、子どもの社会経験の拡大のため、アルバイトの他にも職場実習や職場体験といった選択肢が子どもに与えられるよう、さらなる取り組みに期待したい。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員を配置し、保護者からの相談には決まった職員が応じることとしている。施設は、個々の家庭の状況に応じて保護者に子どもの様子や成長等を伝え、家族との信頼関係を築けるよう取り組んでいる。子どもと家族の面会、外出、一時帰宅については、入所時に家族に文書と口頭で説明し、保護者・子どもの双方から様子を聞き詳細に把握するよう努めている。児童相談所と連携し、個々のケースに応じた家庭支援を行っている。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

家庭支援の方針を明確にし、児童相談所や各市町の子育て支援部署等と連携して、ケース会議で検討を重ねながら個々の状況や状態に応じて適切なペースで支援を実行できるよう努めている。親子交流の前後では、保護者や子どもの様子を注意深く観察し丁寧に会話をすることで、関係改善に向けた支援の方策を検討・実施している。